



豊臣秀吉の朝鮮侵攻

全羅南道・釜山の旅③

今回、博多港から高速船ビートルで初めて訪れた韓国西南部の港町・麗水（ヨス）が、文禄・慶長の役の戦場

であったことを全く知らなかった。豊臣秀吉の朝鮮侵攻も詳しいことは知らず、ましてや日本軍と戦い、朝鮮を勝利に導いた韓国の国民的英雄・李舜臣（イ・スンシン）についても同様である。

四年前に十五日間かけてトルコを旅した。その時、親しくなった徳地在住の友に電話で

今回の全羅南道の旅の報告をする

と、わざわざ一冊の文庫本を届けてくれた。

金薫（キム・フン）著「孤将（こしょう）」。

これは日本軍を破った

李舜臣の生涯を書いた歴史小説で、韓国で高い評価を受け、韓国最高の文学賞「東仁文学賞」を受賞した作品である。

日本語に翻訳したのは北朝鮮の拉致被害者・蓮池薫氏で、彼の翻訳家としての最初の仕事ということで日本でも話題になった本だという。

秀吉が九州を平定し、朝鮮に侵攻したのは文禄元年（一五九二年）。文禄の役と呼ばれる戦いは何と十五万八千七百の軍勢を九つに分けて朝鮮に送り込み、わずか数カ月で首都ソウルまで占拠した。

しかし朝鮮水軍を率いる李舜臣に海戦で敗れ、講和条約を結んで一五九三年に休戦となる。

李舜臣はその後、内部抗争に敗れて失脚するが、一五九七年、秀吉の再度の朝鮮侵攻（慶長の役）で再び将軍として日本軍と闘

い、地の利を生かした巧みな戦術や新兵器の亀甲船十二隻で日本軍三百三十隻を撃ち破り、朝鮮に勝利をもたらした。しかし一五九八年、日本の軍勢が撤退する際の海戦で戦死した。

結局、一五九八年の秀吉の死によって朝鮮侵攻は終わるが、李舜臣は朝鮮を守ったとして教科書にも載っている国民的英雄で、韓国で李舜臣を知らぬ人はいないと言われるほどである。ソウル、釜山をはじめ各地に彼の銅像が建てられており、その目はいずれも日本を向き、にらみつけているという。

麗水市内に国宝・鎮南館がある。これは李朝時代に客を迎える儀式のために建てられ、



麗水にある国宝・鎮南館入り口



金薫 Kim Hoon
蓮池薫訳

韓国の国民的英雄・李舜臣を書いた歴史小説

軍を破った

これは日本

朝時代

事件である。

終えた。